Made in Japanは、Made in Gifuでしょ!

ユニフォームをはじめとするサッカー関連商品を「自社ブランド」で手掛けるアパレルメーカー　三敬㈱。1961年、問屋町に繊維製造卸売業として父が開業。当時から“岐阜で作って岐阜(問屋町)で売る店”だった」と語る、二代目の園部泰敏さんが今、あくまで岐阜発信「Made in Gifu」にこだわり続ける想いを紹介します。

三敬㈱ 代表取締役
園部泰敏 さん

―いつか「Made in Gifu」で見返してみせる

「それって〝岐阜もん〟だろ?」

これは、大学を卒業し、家業であるアパレルの仕事を始めてすぐの頃、園部さんが取引先から、製品の産地について度々言われたことばです。

「それが安かろう・悪かろう、を意味すると知り、本当に悔しかった」と、振り返ります。

岐阜のアパレルの灯を消さない　と決意

跡継ぎとなった30代半ばに、バブル崩壊。「会社を潰さない」ことが自分に与えられた使命だと、夢中で働きました。ですが、アパレルは人件費が高く、気がつけば周りの同業者の多くが、生産拠点を海外へ。

「自分も出るべきか…」

そう焦り、悩み続ける日々が続きました。そんななか意を決し、当時勉強に通っていた「稲盛塾(盛和塾)」で、稲盛塾長に直に相談することに。

すると、塾長は

「私が君だったら、〝岐阜アパレル〟の灯を守りたい」

その言葉に、我を取り戻しました。

「…すごい。その通りだ」

それからは今まで以上に本気で「岐阜」にこだわり、必死に働く日々が続きました。

そんな園部さんを助けてくれたもののひとつが、岐阜アパレルの「縫製力」。

「岐阜には縫製技術の高い職人さんがたくさんいます」

園部さんは、岐阜のアパレルの灯を消さないために、その技術の伝承を進めていくことも自らの使命だと考えています。

今こそ「Made in Gifu」

そして今、バブル崩壊から20年余が経ち、人件費の安い国で大量生産されるアパレル製品の勢いに、ようやくかげりが見え始めました。「Made in Japan」と書かれたタグがある製品が、欧米はもとよりアジア諸国の富裕層の間でも人気を集め、再び「日本ブランド」が世界から注目されているのです。

それは「日本製のリスクの少なさ」だと園部さんは分析します。そこにあるものは、何より日本製品の「技術力」。加えて、原料から製品まで一貫して生産・フォローできる力、また新素材を開発する力。そのすべてが日本には揃っていることにあります。

「それらのほとんどが、この『岐阜』でできてしまうんです。すばらしいじゃないですか」

―今こそ「Made in Gifu」を売り出すチャンス。

そう語る園部さんの笑顔には、自信が溢れています。

「ようやく…」

悩み、闘い抜いた20年余でした。

自社ブランド「Razzoli(ラッツォリ)」は「Made in Gifu」の広告塔

2007年に「若い世代が新たに作り上げていけるものを手掛けていきたい」と、オリジナルスポーツウエアブランド製作に着手。ブランド名を「Razzoli」として展開をはじめました。

「Razzoli」は県内生産にこだわり、例えば生産工程のどこか一部でも海外の手が加われば、プレスや検品などは県内で行うようにするなど、高品質を常に維持しています。

スポーツチームのユニフォームは、そのチームのイメージをアピールする重要なもの。

「うちは小回りの良さが最大の武器です。縫製から刺繍、プリント、プレスなどの加工まで、全て岐阜の工場で対応しているため、小ロットの注文や細かい調整にも、お客様のニーズに素早く対応できます」

その製品技術が認められ、現在51社あるJリーグのユニフォーム・オフィシャルスポンサーのうち、全国で唯一の「地方企業」として、J3藤枝MYFC(静岡県)のオフィシャルユニフォームに採用されています。

「岐阜が大好きな社員ばかりです」

・・・・・・・・・・・・・・・・・

「夢は、FC岐阜の選手のみなさんにうちの『Made in Gifu』のユニフォームを着て試合に臨んでもらうことです」

そう考えるだけで〝ワクワクする〟という園部さん。

瞳の奥には、岐阜県民でびっしり埋まったスタンドからの大歓声のなか、「Made in Gifu」のユニフォームに包まれた選手たちが大活躍する姿が、はっきりと浮かんでいます。

三敬㈱
〒500-8282 岐阜市茜部大川1-10
Tel.058-271-2332 Fax.058-273-8585
URL http://www.gifu-sankei.jp/